

東芝テックOB会だより

第18号 2010年3月31日



会員の広場

第二の故郷

～大屋恵司さん～

三島支部発足総会・工場見学に参加させていただき、関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

私は支部発足を契機にOB会に入りました。退社以来14年ぶりでしたので懐かしい303会議室も歓迎してくれた。又大変ご無沙汰致しておりました先輩・同僚・仲間達と元気な姿で再会し、その瞬間時計が反転し在社当時に戻り筆舌に尽くし難い懐かしさで胸がいっぱいとなった。私も鮎やツバメと同様、帰巢本能が目覚め入会したかもしれない。工場での製品群は当時の面影はなくなり変わって時代の変遷を痛感した。

会社が成長し発展してきた背景には幾多の人達の努力

の賜であると思う。私的なことで恐縮ですが、複写機の現像剤であるトナー製法を伺っているうちに、50年前のことを回顧した。社会人として初めての仕事がゼロックス社の基本特許である電子写真(複写機)の開発でした。当時トナーはカーボン、エポキシ等混ぜ乳鉢での手作りでした。プラントを拝見し技術進歩の偉大さに再度驚かされた。

この日体験したことが私の精神に溜まった垢といような埃を浄化し、更には老化を遅らせたこと間違いなし。本当に良かった。

我が心のジョージア

～倉持矩忠さん～

高い木々の緑におおわれた平原の真ん中に小さく高層ビル群が見える。飛行機がぐんぐん高度を下げて高層ビル群に近づくとつれて緑も輝きを増して来る。そんな米国南部の町ーアトランタがこれほど印象深く、そして懐かしく感じられるようになるとは思ってもみなかった。1970年、初めての海外出張で米国各地を訪問。その中にアトランタがあった。4月だったのでニューヨークを飛び立った朝は氷雨。それがアトランタ国際空港に近づいたら、まぶしい日差しに緑が映え、まるで南の国に来たように思えた。

そして、アトランタを二度目に訪れたのは、1996年12月テックアメリカに赴任した時だった。今度はクリスマスの季節、緑の中に点在する住宅には色とりどりのイルミネーションが輝いていた。それから春を迎え、3月上旬には桜の花が満開、4月にはハナミズキとツツジ

といった具合に一挙に新緑の季節になった。

1997年4月の或る日、保守サービス部のマネージャーがグッドニュースを持って来た。何と！マスターズの最終日のチケットが入手できたとのこと。最高の舞台を見れるなんて。代理店の社長によると、マスターズの開催中はTEC製のレジが8台もテントで活躍するらしい。嬉しくなった。



『オーガスタ・ナショナル・ゴルフクラブ』のクラブハウス



(アトランタの都心に向うフリーウェイ)

その日は快晴。試合開始前にコースを一巡り。各グリーン周りには早くも小さな折り畳み椅子が並んでいる。TVで何度も見たグリーンとフェアウェイはまるで緑の絨毯をひいたよう。松の緑と白砂のバンカーそして赤土のジョージ・クレイがアクセントを添える。ゴルフ発祥の地英国と違い、人工による最高の舞台が目前にあった。そして名前を挙げれば切りがない著名なゴルファー達がすぐ近くでプレイしている。すばらしい！歩き疲れて午後から代理店の社長の自宅でバーボン・ウイスキーを飲みながらTV観戦。タイガー・ウッズが初

めて優勝した記念すべき日だった。

アトランタの郊外にもゴルフ場は多い。丘陵に広がる牧場を眺めながら車を走らせると南部を感じる。そして綺麗な夕焼け空を見ると、「風とともに去りぬ」のヒロインがたたずんでいた映画のラストシーンが目に見え浮かぶ。このシーンはアトランタ郊外で撮影されたとか。ひとり静かにレイ・チャールズの「ジョージア・オン・マイ・マインド (Georgia on my mind)」を聴く時、アトランタの生活が本当に懐かしく思い出される。



(オーガスタのアーノルド・パーマー像の前で)

楽しむ

～宮本照雄さん～

会社で過ごした時間は、自分の人生にとって長いものでした。小学校から大学までの学生生活は16年、幼稚園を入れても20年に満たないものですが、会社では40年近くも過ごしてきたわけです。

OB会だよりに寄稿させていただくにあたって、入社以来の出来事を改めて振り返ってみることができましたが、その中でとても印象に残っているのが流通事業部の海外営業部門で担当した通商問題（ダンピング問題）でした。このダンピングとは、ある商品を日本国内では10万円で販売しているのに、EUの国では9万円で販売している場合に、販売価格を適正にするため、EUの国がその差額の1万円を限度として一定額の税金を課すものです。

当社でも、電子はかりをはじめとする幾つかの商品について欧州の調査当局よりダンピングの調査を受けました。

この調査では、販売価格を比較するための資料を提出し、欧州当局の調査官がその資料が正しいか検証するなど、一件の事案が終わるまでに一年近くを要するものであり、準備する資料も膨大なものでした。工場の経理部門を中心に、販売部隊でも資料の収集にずいぶん協力いただいたことを思い出します。

しかしながら、この調査は販売不振の欧州メーカーを援助する側面を色濃く持つ、ある意味では政治色の強いものであったことから、調査当局による適正な判断が行われず、日々苦慮したことも、今では思い出となっています。

ところで、ある時、欧州の当局である欧州委員会の本件問題の責任者と議論する機会を得ました。当社側の弁護士も交えた議論の中で、このような主張をしました。日本の企業では、工場で、日々“KAIZEN（改善）”を実施し、また事務職員も土曜日、日曜日をいとわず働き、夜遅くまで残業することで、品質が良く価格の安い商品を提供する努力を続けている。この恩恵は、欧州の消費者も享受しており、当局の恣意的な調査は欧州の消費者にも受け入れられるものではない。

これを聞いていた局長は、おもむろに、我々は、そのような哲学を持っていない。日々、自分の生活を楽しむ術を知っている。静かに、時の流れを楽しみながら生活しているところに、突然安い商品を持ってきて買わないのがおがしいと言われる理由は無い。それが、我々の哲学だ、生き方の問題だというものでした。これを受けて、ワインを飲みながらゆっくり昼食をとっているから、価格の高い、品質の劣る商品しか提供できないのであり、それを改善することなく、単に税金を課して自国の企業を守ろうとするのはいかなものか、等々。

勿論、この議論は平行線のままでしたが、帰りの機内でひたすら報告書を書いている日本のビジネスマンを見た時、その姿が妙に気になりました。長い時間をかけて培った民主主義とそれを支える哲学の違いといったものに心が動いたように思いました。

以降、通商問題は韓国、中国等のアジアの国々で問題とされるようになり、年を追うごとに案件も少なくなってきましたが、今でも時折この哲学という言葉思い出します。

日本には、古来より武道、茶道といった文化がありますが、それを忘れて欧米の真似をしている間に日本らしい文化や哲学を見失っていたのかもしれない。

少し時間のゆとりが持てるようになって、旅行やゴルフを楽しむようになってみると、ふっと彼の局長の言った哲学論を思い出すことがあり、面白い経験であったと感じています。ゴルフが一向に上達しないから、このような余分なことが頭に浮かぶのかも知れませんが。

以上

私の三つの自慢話

～千葉文男さん～

私は、平成17年9月末をもって東芝テック秦野を退社。平成17年10月～12月の3ヶ月間を職業安定所に通う。平成18年1月より【TLロジサービス秦野分室】に勤務し、現在に至る。

《パートⅠ》

「フォークリフトの免許」取得平成17年12月

平成17年10月～12月に職業安定所に通い、フォークリフトの免許を取得すべく、パンフレットをもらい、さっそく神奈川県川崎市にあるフォークリフトの教習所に5日間通い、フォークリフトの免許を取得し、現在の勤務先で大いに役立っています。

《パートⅡ》

秦野市消防署の「救急救命講習」受講

「A」平成19年5月「普通救命講習」約半日受講

「B」平成19年9月「上級救命講習」約1日受講—含む筆記・実技試験

秦野市の公報を通じて、「秦野市消防署」の《救急救命講習》(パートⅡのA、B)を受講しました。受講内容の中心は、最近公共の場所等で目にするようになった「AED」への対応を中心とします。

「AED」=自動体外式除細動器(心臓が止まった人に電気ショックを与え、心臓の動きを取り戻す)

倒れた人を発見し、119番通報から救急車が到着するまでに5～6分かかると言われますが、この救急車が来るまでに何もせずに待った時の《死亡の確率の高さ》に対して、救急車が来るまでに「心肺蘇生法」—「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」を30回と人工呼吸を2回(省略も可)—交互に行い、「AED」があれば「AED」を優先することにより《その後の生きる確率に大きくかわってくる》「AED」の取扱いは、法律的には以前は医師しか取扱えませんでした。現在は法律が変わり、医師以外も取扱いが可能になりました。

「AED」はセッティングすると、まず心電図を測り正常な心電図の人には電気ショックの為の充電を行います。

ん。操作は「AED」の音声ガイダンスに従い慌てずに、スピーディーに取扱う。

《パートⅢ》

日本赤十字社の「救急救命講習」受講

「C」平成20年6月「赤十字救急法基礎講習」約半日受講

「D」平成20年6月「赤十字救急法救急員養成講習」

約3日間受講—含む筆記・実技試験

「E」平成20年7月「D」の筆記・実技試験の「合格通知」秦野市の公報を通じて、「日本赤十字社」の《救急救命講習》(パートⅢのC、D)を受講。

受講内容として、「AED及び怪我人への対応」そして「赤十字救急法救急員養成講座」の合格通知を受領する。

現在、「火災」に対しては、企業においては消防隊や消防訓練等の対応がなされていますが、これからの時代は「火災の分野」と共に「救急救命の分野」でも対応する必要があるのではないかと思います。

特に、人が多数集まる場所への「AED」の設置及び取扱える人の養成等を意識的に取組む姿勢が必要と思われます。

《趣味のご紹介》

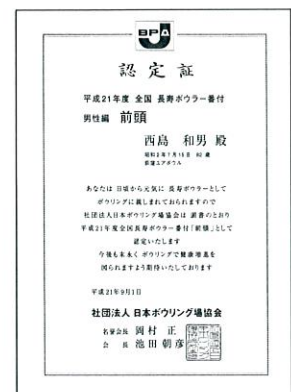
西島和男さん(ボウリング)

ボウラー歴40年、荻窪コアボウルの会員

年間アベレージ 180弱

社団法人 日本ボウリング場協会より

「平成21年度全国長寿ボウラー番付男性編前頭」に認定



起業家紹介

☆ No.7 ☆ 80歳を越え尚着実に経営を遂行 トーカイリフレッシュ株式会社 社長 鈴木淳允氏



この3月で81歳になりました。入社が昭和21年ということですから、昭和20年生まれの私から見ると、まずは年齢の隔たりを感じざるを得ません。しかし、気さくで面白い人柄から、その隔たりを忘れさせられる事と、一方、計り知れない艱難辛苦の人生経験に引きずり込まれてしまいます。

戦中は、旧制中学から航空通信学校に志願し、復員後、混乱期の昭和21年に東京電気の前身、東芝大仁工場に採用されました。

最初の職場は、工具課で、型設計の仕事が与えられました。もとより、図面を書いた経験はないので先輩達に叱られながらの毎日でした。その後、照明器具の静電塗装、赤外線乾燥炉の製造を命ぜられ東芝名古屋工場に実習し何とか完成させました。次いで、大仁工場から新設の東京工場の設備の為に転勤命令が出されました。後述の「サラリーマンは社命一つで生き様が変わる。」という人生観が生まれたのはこの頃からかも知れません。

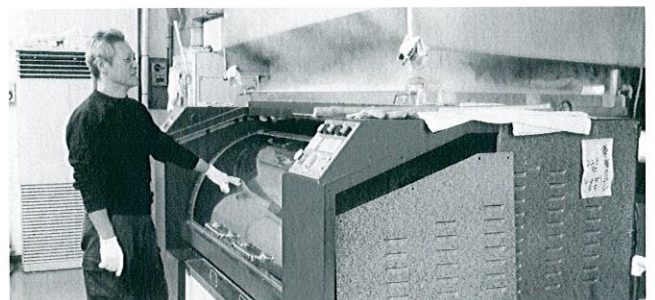
昭和31年の工場から営業への転属は、現在に繋がる運命の転機となりました。郵政省、電々公社への灯器の売り込みが営業マンとしての初仕事になりました。最初のうちは当てもなく郵政省に出向いて食堂で昼食をとるだけの毎日でしたが、そういう日々の中から人脈を掴み大口の受注に繋ぐことが出来ました。その後、制御機器営業部長、電子計量器（ハイメトロン・コレット）の初代商品部長などを歴任、順風満帆に実績を積み上げていきました。

しかし、九州支店長を拜命した後に大きな落とし穴に嵌ってしまいました。若い営業マンの管理育成に成果をあげたにも拘わらず、本社業務部と連絡を取り合った結

果であったにも拘わらず、部下の人事問題で、当時の上司、故洲崎専務の逆鱗に触れる所となり、減俸、降格の上、本社によび戻され窓際族に追いやられました。「最高に仕事をし、最低の処遇を受けた時」と述懐されています。その窓際族生活は約6ヶ月続きましたが、同、洲崎専務の命により国内サービス部長として現場に復帰することになりました。

そして昭和56年、53歳のとき再度大きな転機が訪れました。1月、子会社テックオートメーションへの社長として移籍の話がもちあがりました。営業職についたばかりの頃手がけた商品を扱う会社であったので「ヨーシややってやるぜ」とその気になっていた所、2月に思いもかけず話は急転し、数億の赤字を抱える子会社東静電気へ出向の社命が出されました。東静電気の再建は順調にすすみ、4年後には利益体質の会社に変身し、12年間在籍し、代表取締役専務として定年を迎え、今の会社、トーカイリフレッシュ(株)に移りました。

トーカイリフレッシュは、高温生蒸気（140℃）により寝具を洗浄する特殊洗浄のモデル工場として創設されましたが、当時の役員会にて事業として発展させようと会社にすることを決定したものです。設立は1990年ですから、今年は節目の20年目を迎えることになります。伊豆、熱海の優良ホテル・旅館を固定客として抱え更に多方面に営業活動を拡大し、この不況のなかでも安定した経営を継続しています。従業員は約10名、殆どの方が60歳以上です。近来、この業務を全国的に広めようとする動きが他のOBから上がり、懇切丁寧な指導・協力を展開している段階です。



(寝具スチーム洗浄機リフレッシャー)

今回の記事は、会社の紹介より「社命の一言が人生を変える」鈴木さんのサラリーマンとしての歴史が主となりました。この歴史の隠れた一面には、奥様の腰椎手術の経過が悪く身障者の認定をうけるなど不幸な出来事もあり、30余年の単身赴任生活を余儀なくされました。大変なご苦勞であったろうと推察しますが、苦を苦しめない強靱な精神力が鈴木さんの人生を支えてきたと思われまます。「彼は化け物だ」と周りの口の悪い連中は言いますが、80歳になっても明るく元気に活躍する鈴木さんに対する畏怖の念に近い尊敬の言葉ではないかと思ひます。

厳しい時代、色々な事で壁にぶつかったり、心ならずも早期に引退されたOBの方もいらっしゃると思ひますが、鈴木さんのように「毎日明るく、楽しく働ける間は働く」との気概で、事に臨んで頂きたいと、改めて思う次第です。

トーカイリフレッシュ株式会社

住所：〒410-2317 静岡県伊豆の国市守木60

TEL：0558-76-4099 / FAX：0558-76-0491

(記) 常任幹事 松永秀隆



(起業家ネットワークメンバー)

大仁事業所の近況

東芝テック(株) 執行役員 原 康三

OBの皆様、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃よりご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

今回は、この場をお借りいたしまして大仁事業所の近況を報告させていただきます。

大仁事業所は、現在、流通情報システム事業並びにオートID・プリンタ事業の開発・製造拠点でございます。近年、東芝グループにおける構造改革や経営のグローバル化などにより国内製造拠点の再編・縮小が進むなか、「いつでもどこでもお客様とともに」の理念のもとに、特に国内流通小売業を中心とするお客様のご要望に対し、迅速かつキメ細かく対応できる製造体制の構築を目指し、他品種少量生産の推進・製造リードタイムの短縮などに精力的に取り組むことで、国内で製造することの意義を維持し続けてまいりました。

しかしながら2008年に端を発する世界同時不況下において、低迷する個人消費により流通小売業の市場が急激に縮小する中、お客様からの原価低減・安定した品質に対するご要望はますます強くなってきており、同時に、売上の伸びない中でも利益を持続できる体制を構築するために、固定費の低減、投資の厳選と有効活用などの課題解決に向けて、今後より一層注力していかなければなりません。

さて、そのような中、2009年1月に旧グラウンドに新社屋S棟を建設しました。その年の7月にはOBの皆様にもご見学いただいておりますが、事業所内に分散していた開発・品質保証組織・設備を集約し効率向上を図ると共に、試験環境の充実化や仮想店舗実験室の新設により、より一層の品質向上、他社と差別化された新商品の創出、お客様と一体となったソリューション（課題解決型）事業の拡充をすすめています。また、S棟建設に併せ、2009年3月～2010年2月にかけて、ソフト開発を担当するテックインフォメーションシステムズ（TIS）及びセットアップ・修理を担当するテーイーアール（TER）を大仁事業所に転入・集約しました。これにより開発からサービスまでスルーした体制を構築しシナジー効果の創出を図っております。

OBの皆様はよくご存じのように、大仁事業所は昭和25年に東芝より独立し東京電気器具株式会社としてスタートした当社発祥の地であり、今日に至るまで一貫して当社の製造・開発の重要な拠点として歴史を重ねてまいりました。非常に厳しい経営環境ではありますが、皆様の大変な努力により築き上げてきた大仁でのモノづくりにこだわり、その伝統を守り更に発展させていくべく一層の努力をしてまいる所存です。

今後ともご指導・ご支援のほどをお願い申し上げますと共に、皆さまの益々のご健勝を祈念申し上げます。

支部ニュース

初午・地口行灯開運ツアー《三島支部》

平成22年三島支部最初の行事として“初午・地口行灯観賞ツアー”が総勢21名、今回三島・函南支部の会員をはじめ、伊豆の国、清水、長泉、東京からの会員および会員以外の参加をえて2月14日(日)に実施しました。

お稲荷様の歴史・特徴など三島ふるさとガイド(三島支部会員の山口さん)の説明に始まり、13ヶ所を見て廻りました。普段は見ることの出来ないお店の中を通って見ることが出来たお稲荷様、さらに今作ると莫大な費用がかかる豪華なお稲荷様など、いろいろ観賞出来ました。

さらに三島メイン通りに飾られた地口行灯(地口とはよく知られた諺や、芝居の口上などに同音又は発声音の似通った言葉をあてて違った意味に置き換えるもので、シャレや語呂合わせの一種で江戸時代の言葉遊び)を併せて見てまわり、今まで気にも留めていなかった三島の一面を垣間見ることが出来ました。



観賞後、全員で打ち上げ(食事会)をしました。参加者気あいあいの中で現役の頃の思い出、今の状況など多いに語られ、かつ勇気づけられ今後の糧になったことでしょう。参加者からは「いい勉強になったし、又やってもらいたい」「お稲荷様の新しい知識を得ることが出来た」「地口行灯を自分もやってみたいし参加してみたい」などの意見も多く聞くことが出来ました。



本当に有意義で楽しい一日でした。

東芝テックニュース

《東芝テック株式会社 創立60周年を迎えて》

おかげさまで東芝テック株式会社は2010年2月21日に創立60周年を迎えました。

顧みますと、1950年2月、東京芝浦電気株式会社（現 株式会社東芝）大仁工場から東京電気器具株式会社として分離独立し、その後は社名を『東京電気株式会社』、『株式会社テック』、『東芝テック株式会社』と変更し、本日に至っております。

1950年の創業は、従業員368名の船出でした。まず取り組んだのは蛍光灯器具と和文タイプライターの製造でした。以来戦後の復興期から高度成長期を経て、ドルショックや二度に亘るオイルショック、プラザ合意後の大不況、バブル経済の崩壊など幾多の苦難がありましたが、その都度これらを克服し、創立60周年を迎えることができましたのは、ひとえに長年に亘り当社に寄せられました皆さまのご愛顧、ご支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。

最悪期から脱したと言われてはいますが、時代は今、深刻な不況の中にあります。このような厳しい環境ではありますが、経営理念である「モノ創りへのこだわりと挑戦 いつでもどこでもお客様とともに」をこれまで以上に推し進め、常にお客様の視点に立ち、お客様に評価される商品・サービスを価値あるトータルソリューションとして提供し続ける企業に発展させていきたいと思っております。

また、創立60周年を機に、4月から「TOSHIBA」を社標とします。新たな社標の下で、皆さまから高い評価を得られる企業となるよう、全社一丸となって邁進してまいります。

もちろん、長年に亘って皆さまにご愛顧いただいております「TEC」ブランドについては、今後も変わらず当社のブランドとして、そのブランド力を活かし事業を展開してまいります。

これまで支えてくださった皆さまに改めて感謝いたします。

そして、これからの当社にご期待いただきますとともに、何卒変わらぬご支援を賜るようお願い申し上げます。



【お知らせ】インフォマーシャルの放映開始について

創立60周年記念行事の一環として制作してまいりましたインフォマーシャル（※）がこのたび完成し、3月6日（土）から、BS-TBSの「榊原・寫のグローバルナビ」で放映されます。

“トータルソリューション”をコンセプトとして、当社が提供する“リテールソリューション”“オフィスソリューション”“サプライチェーンソリューション”を表現し、東芝テックの総合力、ソリューション提供力をアピールする内容となっています。是非ご覧下さい。なお、放映の詳細は以下のとおりです。

【放映番組・放映時間等】

■番組：BS-TBS「榊原・寫のグローバルナビ」

■放映時間：土曜日午前8：30～9：24（再放送）日曜日午後8：00～8：54

※再放送については、3月28日放送分より日曜日午後11：00～11：54に放映時間が変更になります。

■放映期間：2010年3月6日（土）から6ヵ月間

（※）「インフォマーシャル」とは……

- ・インフォメーション（information）とコマーシャル（commercial）を合わせた造語。
- ・番組内での商品告知等がはじまり。最近ではCM的なものもインフォマーシャルに含まれる。
- ・一般のCMと比べて、具体的な説明が多い。

事務局より

《会員の状況》(H21/12—H22/3)

☆新会員

伊東 昭さん、和田 弘さん、三井信英さん、藤野公男さん、花田廣安さん、上渕哲郎さん、野崎峰雄さん、長宗輝真さん、稲塚 寛さん、服部春雄さん、村山東充さん、中村健一さん、鈴木 修さん、佐々木英夫さん、藤井信一郎さん、渡辺 敏さん

☆逝去会員

田川恵之輔さん (H22/1)、内山泰伸さん (H22/2)、池田 博さん (H22/2)、野村東一さん (H22/2)、神田 喬さん (H22/3)、原 嶺夫さん (H22/3)、足立金寿さん (H22/3)、市川朝男さん (H22/3)

《お知らせ》

去る平成21年12月16日に開催致しました第8期第11回幹事会において、前期に引続き取組む議題として次のとおり決定致しました。会員の皆様には引続きご支援賜わります様お願い致します。

- (1) 新会員の確保対策の推進
- (2) 静岡地区支部の立上げ
- (3) 起業家ネットワーク作り
- (4) 同好会設立の拡大
- (5) ホームページ改善計画の作成
- (6) OBライフ支援プログラムの推進及びOB会記念資料館設立の件につきましては、状況が厳しいので当面活動を中止致します。

《お願い！》

(1) 『OB会だより』への投稿について
ご承知のとおり、会員相互の絆を結ぶ会報として、OB会だよりを年3回発行しております。会員の皆様に1人でも多く積極的に投稿をお願い致します。

① 会員の広場

【テーマ】私の近況報告等基本は自由です【字数】400字～800字程度（長文でも可）

② 私の作品

絵、陶芸、写真（登山、旅行のスナップ写真を含む）等、会員皆さんの作品を写真に撮り簡単なコメントを付けて送って下さい。又短歌、俳句等も大歓迎です。

③ 原稿送付先（郵送もしくはメール）

〒141-8664 品川区東五反田2-17-2（オーバルコート大崎マークイースト8F）

東芝テック株式会社 総務部 業務・安全担当 藤岡宛

e-mail : Reiko_Fujioka@toshibatec.co.jp Tel : 03-642-7001

④ OB会便り発行予定

『19号』H22 / 7末・『20号』H22 / 12末・『21号』H23 / 3末

